



## <ベトナム・リサーチ・特別レポート>

情報提供用資料

2020年3月13日

### ベトナムの電力事情

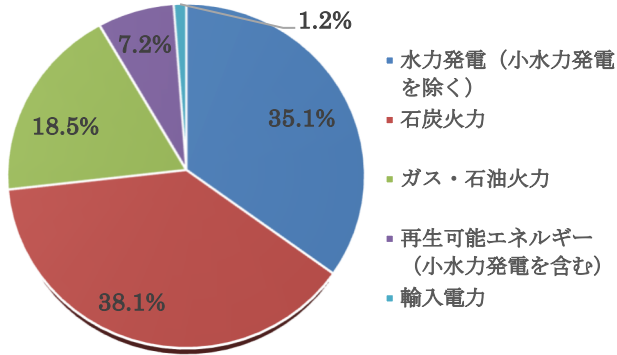
ベトナム経済は好調で高い経済成長を続けているが、それに伴い電力需要が急速に伸びており電力不足が懸念される。ベトナム電力総公社(EVN)の2018年アニュアルレポートによると、18年の発電設備容量は4万8,573MW(輸入を含む)であった。電源構成比は石炭火力が38.1%、水力発電(小規模水力発電を除く)が35.1%、ガス・石油火力が18.5%、再生可能エネルギー(小規模水力発電を含む)が7.2%、輸入電力が1.2%となっている(以下の図表ご参考)。同年の総発電量は21万2,900GWhで、その内、水力発電が40%、石炭火力が39.5%、ガス・石油火力が19%、輸入電力が1.5%であった。2019年1-10月期は石炭火力が48.5%、水力発電が29%、ガス・石油火力が18.6%、再生可能エネルギーが2.1%、輸入電力が1%を占めていた。2019通年は、最低水準の降水量による乾燥した天候が原因で、水力発電量は前年比20%以上減少すると予想されている。電力のメインプレーヤーは1994年に設立された国有企業のベトナム電力総公社(EVN)で、発電市場で60%前後の支配的なシェアを占めており、送電、供給、売買を独占している。

地域別の電力需要を見ると、中部と北部は当面問題がない一方で、南部では需給のバランスが引き続き崩れている。そのため、南部は北部・中部から受電している。特に、2021-2025年頃に電力不足が一層深刻化すると予想される。その要因は電源・送電網開発の進捗状況が計画の60-70%に留まり、送電の電力損失率が7%前後から改善されていないことである。また、各電源開発プロジェクトの遅れや想定以上の需要増もある為、現在、隣国のラオスと中国から電力を輸入している。

電力不足の解消・供給の安定化に向け、ベトナム政府は、第7次国家電力マスタープラン(PDP7)を2016年に改定した。改定PDP7では、2030年までに総発電量57万2,000GWh、発電設備容量12万9,500MWまでの開発計画を策定している。南部では、2021年~2023年にかけてSong Hau I(1,200MW)、O Mon IV(750MW)等の発電所が稼働を予定している。改定PDP7の計画通りに電源開発が実施されれば、電力の安定供給が見込まれるが、電源開発の遅れや想定以上の需要増等のリスクも懸念されている。

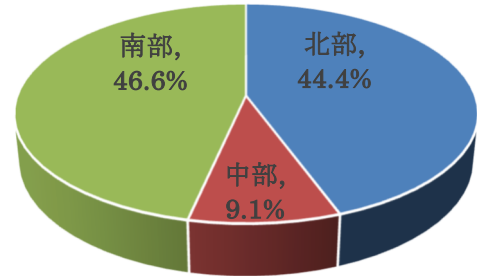


電源の構成比(2018年)



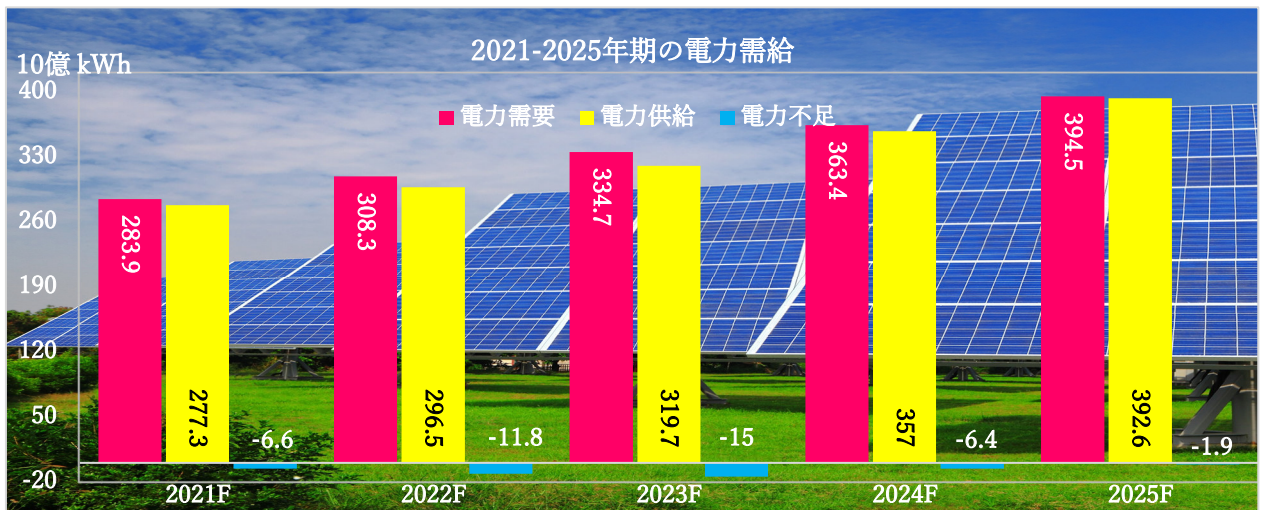
出所: ベトナム電力総公社(EVN)

地域別電力消費量(2018年)



出所: ベトナム中央給電指令所(NLDC)

電力需要予測と電源容量の推移(2021-2025 年期の電力不足予想)



出所: ベトナム電力総公社(EVN)



ソンラ水力発電所



出所:ベトナム電力総公社(EVN)

ニョンチャック 2 発電所



出所:ペトロベトナム電力(POW)

【参考資料】ベトナム電力総公社(EVN)、ベトナム改定第7次国家電力マスタープラン、  
エネルギー研究所(IE)、国際協力銀行、JETRO の各 HP/資料